



《問い合わせ》

上野図書館 ☎ 21-6868 FAX 21-8999
 いがまち図書室 (いがまち公民館内) ☎ 45-9122
 島ヶ原図書室 (島ヶ原会館内) ☎ 59-2291
 阿山図書室 (あやま文化センター内) ☎ 43-0154
 大山田図書室 (大山田公民館内) ☎ 47-1175
 青山図書室 (青山公民館内) ☎ 52-1110

司書のおすすめ



■絵本

『雨の日の地下トンネル』
 鎌田 歩／作
 街に降った雨は、屋根や地面に落ちた後、どこへ行くのでしょうか？ 意外と知らない、雨から街を守るしくみを、大迫力の絵で描きます。

■一般書

『消えゆく動物 絶滅から動物を守る撮影プロジェクト』
 ジョエル・サートレイ／写真・著



■児童書

『フルーツふれんずブドウくん』
 村上 しいこ／作
 角 裕美／絵



■一般書

『消える地銀 生き残る地銀』
 野崎 浩成／著
 『焚き火の本』 猪野 正哉／著
 『世界の民芸玩具』
 尾崎 織女／著、高見 知香／写真

■児童書

『うんち工場で大冒険！』
 マルヤ・バーセラー、
 アネマリー・ファン・デン・ブリンク／文
 『鉄道のひみつ』 谷藤 克也／監修

■絵本

『スマイルショップ』 きたむら さとし／作
 『ごめんなさい！ だいじょうぶ！』
 ルイス・スロボドキン／作
 『ねこはすっぽり』
 石津 ちひろ／文、松田 奈那子／絵

図書館 (室) からののお知らせ

◆郷土の歴史夜咄会

【とき】 1月15日(金) 午後6時～7時30分
 【ところ】 ハイトピア伊賀 5階多目的大研修室
 【テーマ】 伊賀蕉門の長老 山岸半残
 【講師】 地域誌「伊賀百筆」編集長 北出 楯夫さん
 ※来場の際は、上野図書館駐車場または市営上野公園第3駐車場(午後5時以降無料)をご利用ください。

◆ことばで伝えるおはなし会

ストーリーテリングのおはなし会です。本を持たずにお話を語ります。5歳から大人まで楽しめる催しです。

【とき】 1月10日(日) 午前10時30分～
 【ところ】 上野図書館 2階視聴覚室
 【語り手】 おはなしコットン
 【問い合わせ】 上野図書館



1月の読み聞かせ

絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどをします。(30分～1時間程度)

とき	ところ	催物(読み手)
9日(土) 10:30～	上野図書館	おはなしの会
	大山田図書室	おはなしたいむ(きらきら)
12日(火) 10:30～	阿山図書室	読み聞かせの会(はあと&はあと)
12日(火) 11:30～	青山図書室	おとなカフェ
15日(金) 10:00～	いがまち複合施設小ホール(旧ふるさと会館いが)	絵本の時間(お話の国アリス)
17日(日) 10:30～	阿山図書室	読み聞かせの会(はあと&はあと)
19日(火) 10:30～	大山田図書室	あかちゃんたいむ・ミニおはなし会
20日(水) 10:30～	上野図書館	えほんの森(よもよも)
23日(土) 10:30～	上野図書館	おはなしの会
27日(水) 10:30～	上野図書館	おひぎでだっこのおはなし会
28日(木) 10:30～	青山図書室	おはなしなあに？

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者の人数を制限しています。



詳しい情報はこちら



花咲かりん

伊賀産の米粉となたね油、三重県産の小麦などの厳選素材を使った、花の形をしたかりんとう風味のお菓子です。

職人が一枚一枚手揚げしており、一口食べるとほのかに甘く軽い食感で、子どもから大人まで幅広い世代に好評です。



株式会社賀門
代表取締役 道山 洋子さん

株式会社賀門の創業は平成15年、設立は平成24年10月で、事業所は中心市街地の本町通りに面しています。

「花咲かりん本店」という看板を掲げて、「花咲かりん」シリーズの多様な商品の販売と、地域の人々が憩う場としてカフェを併設しています。小さな事業所ですが、従業員が丸となり、品質の良いお菓子を作ろうと日々奮闘しています。これからさらに努力を重ね、皆さんから愛される存在であり続けたいと思っています。



【問い合わせ】 商工労働課
22・96669 FAX 22・96695

「ウィークリー伊賀市」でも見られるよ！

【放送期間】

1月4日(月)～10日(日)



小・中学生のためのコラムです

こども広場

「『土芳』ってどんな人？」

服部土芳は、俳句の先生である松尾芭蕉の教えを守り伝えながら、伊賀で生涯俳句に取り組んだ江戸時代の人です。幼い頃から芭蕉に俳句を教えてもらい、大人になってからは、伊賀における俳句の中心的存在として、人々に教えるようになりました。

■伊賀における俳句の中心地
だった蓑虫庵

32歳のとき、土芳は新しい庵（小さくて粗末な家）に移り、俳句に専念するようになります。芭蕉はさっそくこの庵を訪れて、

蓑虫の音を聞こよ草の庵

という句を贈りました。この句にちなんで庵は「蓑虫庵」と呼ばれるようになります。

芭蕉は、ふるさと伊賀に帰ると、この庵に泊まったり、土芳と句会を開いたりしていました。芭蕉が亡くなったあとも伊賀の人々は蓑虫庵に集まり、俳句を楽しんだといわれています。

今も蓑虫庵を訪れると、芭蕉や、伊賀の俳句の仲間たちがともに時間を過ごした様子を想像することができます。

■芭蕉の作品を伝える

芭蕉が亡くなったのは、土芳が38歳の時でした。知らせを聞いた土芳は、葬式が行われている大津市の義仲寺へかけつけます。土芳は芭蕉の死をかなしみながらも、その教えを集め、後の世の人に伝える決意をします。

土芳が集めた芭蕉の教えは『三冊子』という本にまとめられました。その中には、俳諧は三尺の童にさせよ

(俳句は幼い子どもにさせるのがよい) という言葉が伝えられています。

土芳が芭蕉の教えを書き残したことに よって、私たちは多くのことを知ることができます。



蓑虫庵 (上野西日南町)

【問い合わせ】 文化交流課

22・96221 FAX 22・9619